

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月25日

【評価実施概要】

事業所番号	4271401681
法人名	有限会社 共和
事業所名	グループホーム ひまわりそう
所在地	〒859 - 2203 長崎県南島原市有家町尾上1608番地1 (電話)0957 - 65 - 2788

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年12月19日	評価確定日	平成20年1月10日

【情報提供票より】(H19年 11月 29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年	9月	1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	18 人	常勤	15人, 非常勤	3人, 常勤換算 10.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	7,000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		

(4) 利用者の概要(11月 29日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	49 歳	最高	103 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	永田内科泌尿器科医院・石川医院・小嶺歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、自然に囲まれ畑の野菜・草花等が多く、気候の良い時期には最高の散歩コースである。ホームは2つの棟それぞれに玄関があり、造りに多少の違いはあるが、広々とした居間・廊下にはくつろぎ易い居場所の確保があり、テーブルやソファ・こたつ等を置いて、気の合う仲間同士や職員と入居者・家族と思い思いに楽しむ事の出来る様な配慮が窺える。管理者始め職員は、本人・家族の想いを大切に、家族の負担が軽減出来る様に多機能性を活かし、墓参り・受診・入院に伴う支援を行っている。食事や水分摂取にも配慮し、栄養士の職員を中心としたバランスの良い献立作りで、ご飯は食べ易い大きさにしたり、野菜の苦手な方でも美味しく食べる事が出来る様に工夫されている。ひまわりのような・まるい心で・わになって・りんじんを愛し・そうだんし生活しよう・を念頭に置き、中学生の職場体験も受け入れ、運営推進会議を通し、外部からの意見やアドバイスを参考に、住み慣れた地域で互いに協力しながら、日々入居者を尊重した介護の実践に取り組まれているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の改善点である理念の掲示については、職員又は外部の方が目に付き易いように額に入れる等の工夫をして、玄関入り口・食堂に掲示をしている。介護計画については定期的な見直しに仕組み、万が一の緊急時に備えた対策として、消防署と連携をして応急手当法の訓練を重ねている。又、外部評価後、出来ることから徐々に取り組む姿勢が窺える。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員一人ひとりが全項目に対して自己評価をして書き記し、総合的結果を管理者がまとめられた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4)
	今抱えているホームの課題等の問題点について意見を求め運営推進会議メンバーの方々から、具体案を出して頂き、一緒に取り組まれている。実際に事業所だけでは解決出来なかった事でも、アドバイスのお陰で解決出来た例がある。ホームの行事ごとや状況報告もしており、ホームの実態を知って頂く事で、認知症についての理解が得られ、運営推進会議がホームの運営に活かされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	ホームについての苦情・相談の申立先をホームの窓口だけでなく、直接言い難い場合を考慮して、外部の行政機関などに設置をしている。又、重要事項説明書に明示をして、契約時に本人・家族に説明をしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	入居者がホームだけの生活にとどまる事の無い様、常日頃から関わりを持つ取り組みをしている。例えば、小学校の運動会や祭りへの参加・ホームでの敬老会には婦人会から慰問があり、踊りやカラオケ・健康体操を観覧出来た。年2回の火災を想定した避難訓練では消防署と連携をして、実際に消化器を使って初期消火の訓練に取り組まれた。地元の消防団や近所の方にも入居者の状況を知って貰うと同時に、認知症への理解を求める働きかけを行っている。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念を、家庭的な雰囲気が残存能力を活かし・尊厳を守ながら自立支援に努め・本人や家族の安心を目的とする等、4項目掲げている。理念に付け加え、「ひまわりそう」の頭文字から、ひまわりのような・まるい心で・わになって・りんじんを愛し・そうだんし生活しよう・と地域の中での暮らしを大切にしたいキャッチフレーズをホームのパンフレットにも載せている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を、誰にでも分かり易く伝える為に玄関・食堂に掲示をしている。管理者・職員は介護をしながら理念が共有出来る様に、理念の実践に向け、毎日復唱して意識付けをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者が孤立する事が無い様に、地元の人々と触れ合う機会が持てる様取り組まれている。例えば小学校の運動会や祭り、地域の文化祭に参加している。ホームの敬老会の際には、地元婦人会から慰問があり、踊りを観覧でき日頃から交流出来る様努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価について全職員一人ひとりが、これまでのケアを振り返り、全項目について書き記し、総合的結果を管理者がまとめられた。しかし、前回の外部評価後の取り組みについては、評価報告書から改善点について口頭での連絡にとどまり、ホーム全体で今後どの様な取り組みをしていくのか、話し合いの場が持たれていない。		外部評価後、取り組みが期待される項目については、評価報告書を基に全職員で対策案等を検討し「計画シート」を作成し、どのように取り組んで行きたいのか、それがいつどの様に実行され解決に向かったのか、記録として残される事を望まれる。又、全職員一丸となって、取り組み易い項目から徐々に始められ、今後より一層のケア向上を期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況報告をして、今のホームの課題等を挙げ、メンバーからの活発な意見交換や提案があり、解決出来た事が沢山あるとの事で、運営推進会議がサービス向上に活かされている。		

グループホーム ひまわそう

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃から、入居に関する事で相談等もあり行き来がある。入居後にも市担当者との関わりが多く、連携してサービスの質の向上に取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の日頃の暮らしぶりを家族に伝えるために、担当職員が入居者個々に応じた便り「ひまわりそう便り」を作成し、家族宛に近況報告を定期的に発行している。金銭管理については、預かり金やホーム立替など個々に応じた報告を行い、定期的に家族に確認の意味で記名をして貰い、確実な報告が実践されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに対しての苦情・相談の申立先窓口をホーム又は、行政機関や第三者委員の外部にも設置をして「重要事項説明書」に明示をし、入居契約時、本人・家族に説明をされている。しかし、直接言い難い場合などを考慮しての一つの対策として意見箱の設置がない。		ホームの更なるケア向上を考えた時、本人・家族・運営推進会議メンバー・ホームを訪問された外部の方の意見は、とても重要な物になると考えられる。口頭で直接言い難い場合を考慮して、意見箱の設置を検討される事が望まれる。又、意見・相談のし易いホームである事を望み、意見等を基に、全職員それぞれの視点から様々な意見を交わし、ケアサービスの質の向上を目指し、ホーム全体が一丸となって取り組まれて行く事を期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員が入った場合、入居者に丁寧に紹介し馴染みの職員が心配りをして、徐々に上手く馴染む事が出来る様努めている。家族の訪問の際にもきちんと紹介を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者始め、職員は積極的に研修に参加されている。しかし、報告書の提出にとどまり職員のケア会議などを通しての報告会が徹底していない。		どのような研修内容で、それを今後支援していく中でどの様に取り組み活かして行きたいのか報告書に書き記し、研修に参加出来なかった職員に伝え周知していく為に報告会の徹底が望まれる。又、管理者・職員の一人が交代で講師となる等して、ホーム独自で徐々に定期的に勉強会を行い、知識の共有をし、より一層ホームの質の向上に繋がる事を期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員はケア研究会等の研修を通し、交流する機会がある。個々の立場で、サービスの質の向上に向かって取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居の相談があれば本人・家族に見学に来て頂いている。入居して馴染むのに時間がかかっても、職員は熱心に真心を持って入居者が安心出来る様な、言葉掛けをし、徐々に馴染める様、家族に十分な理解を求め話し合いを行いながら、取り組まれている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者は人生の先輩である事を忘れず、アセスメントシート(生活暦や食事の好き嫌いなどの情報)を基に、昔の職業や得意なものを引き出し、学んだり出来る様な場面作りに工夫されている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の意思を尊重され、墓参り・買い物等を聞き入れている。職員は入居者一人ひとりの希望や意向を把握し、入居者本位の暮らしの支援に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月1~2回のケア会議の際、本人・家族の意見を基に全職員で話し合い、最終的に計画作成担当者がまとめられる。入居者に対して、職員の担当を決めて、今年度は本人・家族から生活暦や食事の好み等についての聞き取りを行い「アセスメントシート」として記録に残し、担当者を中心に、職員は計画に活かせる様に責任を持ってチームで作る介護計画の実践に取り組まれている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月程度に一度、介護計画の見直しを行っている。3ヶ月経たなくとも入院等で入居者の状況などに変化が生じた場合は、本人・家族と話し合いを行い、現状に即した計画の見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者が医療機関を受診の際には、付き添いを行っている。入院となった場合も必要な物の準備を行い、家族の負担を軽減出来る様に、柔軟な取り組みが行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を大切に、以前からのかかりつけの医療機関で受診出来る様、支援している。本人の体調次第では、往診出来る様にホーム側も配慮されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族の考え、意見を聞き十分な話し合いのもと、医療機関と連携しながら慎重に取り組みをされている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は常日頃から、職員の入居者に対する言葉かけには十分に注意する様に申し送り等を通して、話しを行っている。ホームの運営理念の中の一つにも入居者の尊厳を守りながら支援を行う様、掲げており、プライバシーの確保の徹底の実践に努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が墓参りや買い物などの希望があれば、職員と一緒に出掛けている。年齢やその日の体調に合わせ、無理に職員の都合に合わせるのではなく、希望に沿った支援が行われている。		

グループホーム ひまわそう

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理者が入居者と同じ食事を共にし、会話をして和やかな雰囲気ですぐに食事が楽しめる様取り組まれている。ご飯類は個々に合わせ、食べ易い大きさにしたり、刻み食にする等して、美味しく食事が摂取出来る様、職員のアイデアが活かされている。職員は食事の支援を行いながら、入居者のそれぞれの想いに配慮している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の事を第一に考え、その日の体調等に配慮して、言葉かけに工夫しながら無理の無い程度での入浴支援が行われている。状況によっては、清拭をしたり衛生面に注意しながら、個々に合わせた入浴支援が行われている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の昔の職業や得意なもの(習字など)と一緒に振り返り共感する等して、張り居合いのある日々を過ごせる様取り組まれている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	A棟とB棟の入居者は、互いにいつでも行き来出来る様に支援されている。気候の良い時期には、車椅子でも散歩を行うなどして、職員は入居者が少しでも戸外に出て景色を眺めたり、日光浴が出来る様、入居者に合わせ無理の無い外出支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、入居者のその日の体調・状況を細かく察知し見守りながら、日中は鍵をかけることの無いケアの実践が行われている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署立会いのもと、火災を想定した非難訓練が行われている。地域の消防団にも協力を呼びかけており、入居者を守るために連携体制が整っている。避難場所を2ヶ所確保しており、あらゆる火災場所を想定して臨機応変に対応出来る様、更に夜間を想定した訓練を重ねている。		

グループホーム ひまわそう

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の職員を中心としてメニューを考え、バランス良い食事が取れる様配慮されている。水分摂取にも心がけると同時に、野菜ジュースを取り入れるなどして、野菜の苦手な入居者でも、上手く摂取出来る様な工夫が窺える。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各棟それぞれに廊下や居間の作りが広々とした作りになっている為、ソファやテーブル等を設置してゆったりと過ごせる様なスペースが十分にある。廊下の壁には、家族が気軽に見れる様「写真集」として綴ったものをケースにいれて、入居者の日頃の暮らしぶりを窺う事も出来る。又、季節感を取り入れ、入居者と職員の共同作品のちぎり絵を飾って生活感があり、居心地よく過ごす事が出来る様な配慮が窺える。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者がそれぞれに、これまで使われてきた家具・椅子・テレビ・小さめのテーブルや寒い時期にはホットカーペット等を持ち込まれており、家庭的な雰囲気が十分に窺うことができる。家族の訪問の際にも居心地よく過ごせる様工夫されている。		